

基本動作のしおり



諏訪市消防団

《消防訓練礼式の基本動作》

消防の任務を遂行するには、厳正な規律の保持と迅速で的確な秩序ある行動が必要とされる為、消防団員には一定の訓練礼式の習得が義務付けられています。

訓練は、隊員を諸制式に熟練させて部隊行動を確実にし、消防諸般の要求に適応させる為の基礎を作るものであり、礼式は礼節を明らかにして規則を正し、団員の品位の向上を図ると共に和衷協力して団員の団結を強固にし、消防一体の実をあげるためのものです。

訓練は、各個の訓練と団員の訓練により停止間と行動間に分けられ、礼式は室内と室外に分けられています。

ここでは、停止間の各個の訓練及び礼式の基本動作や法被の着こなし方指揮旗の持ち方と敬礼、旗の持ち方と敬礼について記載しておきます。

《停止間の号令のかけ方》

号令は、命令の具体的行動を、具体的に伝達する最も簡潔な手段であり、短時間に実行を迫る強制力を持つ手段である。

①号令は、「予令」と「動令」に区別される。

(1) 予令

下命者の意図を示すものであり、受命者は予令により、次ぎにかかる動令で正確に行動を起こせるように準備にかかる。

(2) 動令

受命者は動令がかかれば、即座に行動をおこす。なお、予令と動令の間に、一定の間隔があり、その間に次の行動の準備を整える。

②訓練礼式における号令用例一覧

| 種 目 | 号 令 | |
|---------------|---------------|-----------|
| | 予 令 | 動 令 |
| 基 本 の 姿 勢 | 気 | を つ け |
| 休 め の 姿 勢 | 整 列 | → 休 め |
| 右 (左) 向 け | 右 (左) 向 け | → 右 (左) |
| 半ば右 (左) 向 け | 半ば右 (左) 向 け | → 右 (左) |
| 半ば右 (左) 向 け | ま わ れ | → 右 |

《停止間の基本動作》

●号令後向き「回れ右」

基本の姿勢から、「まわれ→右」と号令をかける。

[要領]

- ◆基本の姿勢から、右足をそのままの角度で、足先が左かかとから5 c m後方となる位置まで引く。
- ◆両かかを軸に180度右へ旋回する。(旋回するとき、手を腿から離さない)
- ◆右かかとを素早く左かかへと引きつける。

- ①右足をそのままの角度で、足先が左かかとから5 c m後方となる位置まで引く。



- ②両かかとを軸に180度右へ旋回する。



- ③右かかとを素早く左かかへと引きつける。



(4) 敬礼動作

上級者や国旗などに対する、いわゆる「おじぎ」であり、室内における脱帽時の敬礼と屋外における着帽時の敬礼がある。なお、帽子の脱着はその場の指揮者などの判断に従うものとする。

●号令「挙手注目の敬礼」（着帽時）

基本の姿勢から指揮者が、「敬礼」と号令をかける。もとに復させる場合は、「直れ」の号令をかける。



[要領]

- ◆指揮者を注目する。
- ◆手のひらを少し外に向ける。
- ◆肘はほぼ肩の高さ。人差し指と中指とを帽子のひさしの右端にあてる。
- ◆親指は人差し指につける。

●号令「かしら右（左・中）、注目の敬礼」

基本の姿勢から指揮者が「かしら→中（左・中）」と号令をかける。もとに復させる場合は、「直れ」の号令をかける。



[要領]

- ◆団員は頭のみを動かし、受礼者、国旗などに注目する。
- ◆「かしら→右」の時は頭を右に、「かしら→左」の時は頭を左に、「かしら→中」の時は列全体の中央付近に頭を動かし、顔を向ける。

●号令「敬礼」（脱帽時）

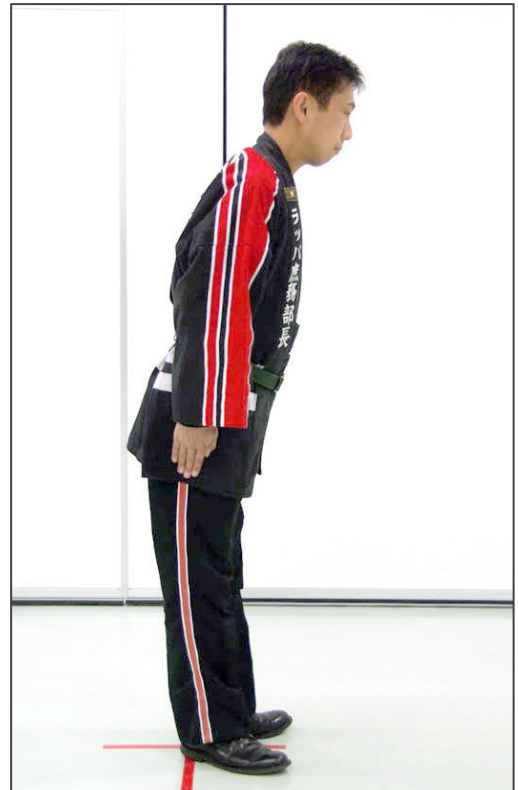
基本の姿勢から指揮者が「敬礼」と号令をかける。もとに復させる場合は、「直れ」の号令をかける。

[要領]

◆受礼者に向かって姿勢を正し注目した後、上体をおおむね15度傾けて行う。（角度が深くなりすぎないように注意する）

◆親指を内にし、人差し指、中指とでひさしを掴む。

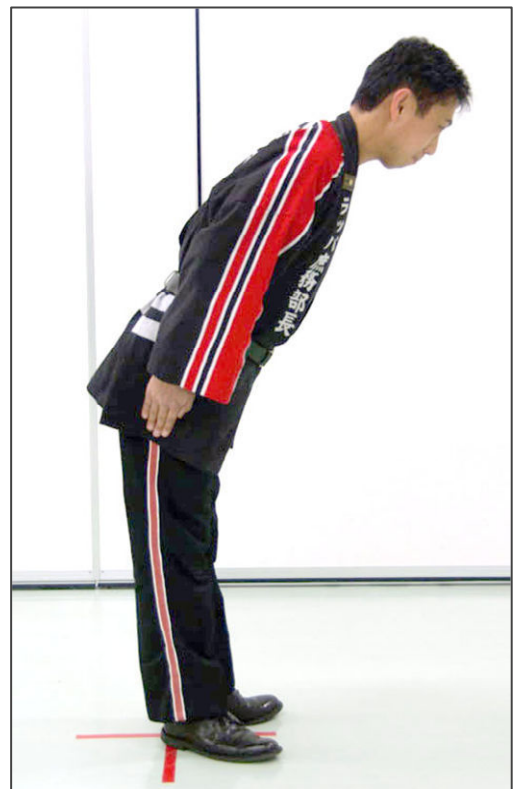
◆手は基本の姿勢のままの場所に保持し、身体の前に垂らさない。



●号令「最敬礼」（脱帽時）

[要領]

◆上体をおおむね45度傾ける。他は敬礼と同じ動作。



《法被の着こなし方》

(1) 略帽

◆帽子は平行にかぶり、ひさしと後部を指で押さえ向きを整える。



(2) 法被の着方

①前方



②後方



ベルトはおおよそその高さで法被を留める。
※前の飾りは、上下があるので留意する。
(中がYになるように)
前襟は拳一つ(約10cm)開け、整える。

後のたるみを身体の両側面へひき、たるんだ部分を折り返し整える。

(3) 法被のたたみ方



①諏訪市消防団の文字が上に出るように、上下逆に置き、半身にたたむ。



②袖を体側におる。



③下から持ち上げるように半分におり、所属分団と階級が見えるようにたたむ。

《指揮旗の持ち方と敬礼》

(1) 指揮旗の持ち方 「気をつけ」



「休め」



- 収納時 -



(2) 指揮旗を持つ動作

●号令「指揮旗をとれ」



①左手で下側からぬく。



②旗を開き、気をつけの姿勢に。

②指揮旗の敬礼

予令 (頭 →)



動令 (中)



③行進時の号令

●号令「分列に→前へ→進め」



①予令「分列に→前へ→」の時点で指揮旗を上げ、まわれ右をする。



②向きが変わったのち、動令「進め」をかけると同時に指揮旗をおろす。

《旗の持ち方と敬礼》

(1) 旗の持ち方

「気をつけ」

「休め」



[要領] 右ひじは水平にする

- ◆旗竿の下端を右ももに当て、肩の高さに右手で握り、旗の先端をわずかに前方に傾ける。
- ◆「整列休め」「気をつけ」は旗をもったまま行う。

(2) 旗の敬礼

[要領]

- ◆旗竿の下端を右もも、又は「旗竿留めバンド」に当て、右腕を十分に伸ばす。



※旗の傾斜角度は一定ではなく、旗手の右腕を十分に伸ばした状態で、旗の先端が地面に触れない程度の傾斜であればよい。

旗が同型で複数であれば、できるだけ傾斜角度の斉一を図るように留意する。

宣 誓

我等諏訪市消防団員は郷土の災害防あつのため
一、誓つて人格教養の向上を期す
一、誓つて実力の涵養に専心進せんことを期す
一、誓つて規律の厳正保持を期す

諏訪市消防団



基本動作のしおり
諏訪市消防団

編 集 平成19年度庶務部長会
更 新 平成20年3月12日

諏訪市消防団ホームページ
<http://www.lcv.ne.jp/~dansuwa/>